

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300165		
法人名	株式会社 ゆう悠		
事業所名	グループホームとにも中斜里		
所在地	北海道斜里郡斜里町字中斜里23番地36		
自己評価作成日	令和2年10月19日	評価結果市町村受理日	令和2年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0195300165-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0195300165-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は4月で5年目に入りました。毎日歌声が聞こえ、笑顔で楽しい会話が飛び交う施設です。日々理念を心に居心地の良い環境づくり、支援に取り組んでいます。自治会に加入し、地域行事に参加させていただいておりますが、コロナの影響でほとんどが中止になりましたが定期的に「みんな元気かい？体調はどうだい？」と様子を見に来てくださいます。明るくなれるようにと自治会副会長様自らヒマワリを植えて下さいました。地域の方々に守られている事に大変心強く思っております。斜里町のスーパーで使って頂いている新聞袋も5年目の今でも好評で毎日欠かさず制作しております。年6回の運営推進会議ですが今年はコロナの影響で第一回から書面会議を行いFAXにて貴重なご意見、心温かいお言葉を頂き皆様に支えられていると改めて感謝しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

斜里岳や知床の山々が見渡せる中斜里の地に2016年4月開設された平屋建て1ユニットの「グループホームとにも中斜里」は、開設時から地域住民の協力が多くあり、感染症流行の現在も様子を気遣った声かけをしてくれたり、花を植えてくれたり、野菜を持参してくれたりサポートを受け良好な近所付き合いを重ねている。感染症流行前は家族の訪問時は基より毎月の事業所便りやケアプラン更新時にケアマネージャーが自宅を訪問し様子を伝え要望を聞いていたが、現在は事業所便りに加え細やかに報告を行い、家族の信頼を得ている。地域のスーパーマーケットに置かせてもらっている新聞紙で作る袋も継続して行い、地域の方々に喜ばれている。開設時からの理念は目に付く所への掲示や毎月の会議時に確認し、職員は意識しながら介護の提供に努めると共に、更に具体的に毎月目標を定め、方向性を同じくしている。毎月行っている内部研修は、年間計画を職員の意見を取り入れて作成し、更にキーワードを設定して理解を促している。研修内容も具体的な介護技術から「資格を取ることの意味」「職場環境について」等々幅広い内容で職員のモチベーション向上、スキルアップにつなげている。リビングの大きな窓からは山々を臨む事ができ、季節の移り変わりが感じられる。職員の変動も少なく利用者と馴染みの関係が築かれており、利用者はカラオケやゲーム、会話等を楽しみながら穏やかに暮らしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目の触れるところ勤務表、会議録等に表示しており、毎月職員会議には、必ず確認を行っております。	系列のグループホーム開設時に作成した理念を共通の物とし、共に安心して暮らすことのできる居場所づくりを目指して取り組んでおり、目に付くところへの掲示や会議冒頭での朗読、各種書類への記載等で意識の元に置き、実践できる様取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事にも積極的に参加、花壇作りを自治会の方々と一緒に作業しております。毎週土曜日の「いきいき・かみかみ体操」の参加で交流を保っております。今年はコロナの影響で自粛しております。	開設時より自治会に加入し地域とともに歩んでいる。ひまわり植栽や花壇づくり、除雪の協力、盆踊り参加、各行事参加と取り組んできたが、今年度は感染防止のため自粛している。地域からは野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の広報、2か月に1回 年6回の運営推進会議でも認知症について理解して頂く機会があり、質問を受け相談に乗る事ができます。気軽に相談できる場として利用して頂けるよう努力しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を行い(今年は書面会議を行っています。)地域の方々、民生委員、町担当者、施設管理者、入居者様ご家族の参加があり、会議では現況報告・ヒヤリハット・事故報告を行い意見等貴重なご意見をいただいております	運営推進会議は基本的には2か月ごとに、地域自治会役員、民生委員、利用者家族、町担当者等の出席を得て開催しているが現在は書面で状況、活動、事故、研修等の報告を行っており、意見、助言をFAX等でもらい運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に役場担当者も加わっている為、不明な点や状況報告を行い、理解、把握して頂いております。外部研修に出席時にも、意見交換、情報交換の機会を確保しサービスの質の向上に努めております。	町担当者とは報告書提出や困難事例の相談を行ったり、町の歯科衛生士職員による指導依頼を積極的に行い介護の中に取り入れている。日常的に意見交換や情報交換を行っており良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について学習を行い、周知を図っております。問題が生じた時にはすぐに対処法を話し合い、身体拘束を行わないように取り組んでおります。	身体拘束廃止に向けては廃止マニュアル、指針を作成し3か月ごとに身体拘束廃止対策検討委員会を開催し、介護の中に身体拘束や不適切な介護、言動が無いかを検証している。職員が講師になり内部研修にも取り組み、禁止行為等を正しく理解し支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止法について学習しております。マニュアルについてもすぐ手に取れる所にあり、新入社員にも新入社員研修の場で虐待防止の徹底を学んでおります。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項にも明記し内部研修、新入社員研修で勉強会を実施し制度について学習しています。必要に応じ活用、支援できるよう取り組んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に御家族に見学に来ていただき説明を行っております。契約時には必ず2名以上で対応して費用等の重要事項を時間をかけ説明し理解を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気軽に投稿して頂けるよう配慮しております。施設主任が窓口となり対応しています。面会時にはご家族としっかりとコミュニケーションを図り思いを汲み取れるように努めております。他職員が聞いた時には速やかに報告、対応しております。	利用者の意見や要望は日常の会話や言葉の中で把握したり、家族の意見等は面会時や、感染症の流行以前はケアマネによるケアプラン持参説明等の訪問時に聞いている。毎月発行のお便りでも日常の様子を写真掲載し、家族からは多くの信頼を得ている。意見箱を設置してあるが使用は無い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う申し送り、連絡事項等で意見、気づき等を集約し毎月行う職員会議で検討し、運営に反映させています。	職員の意見や提案は毎日の申し送りや、毎月の会議の中で把握するようにしており、職員も積極的に提案を行っている。職員の勤務計画は無理なく作られており、退職は少ない。昨年までボランティアに来ていた高校生が職員として採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は数時間でも職員と関わりを持ち相談やアドバイスを行っております。毎年12月には職員全員と面談を行い環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修ではその月の担当者が研修内容の勉強を行い、講師となり学習しています。又外部研修に参加の時は学ぶ機会を持ち研修後復命書を回覧し職員間で共有 意欲向上に繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームや特養の職員の方々に運営推進委員をお願いしています。又地域ケア会議やケアマネ連協に参加し情報交換を行っております。町内のボランティア活動の「みちくさサロン」毎月15日に参加し入居者様、職員の交流の場となっております。(今年はコロナの影響で中止になっています。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様、御家族に見学して頂いたり自宅に職員が訪問させていただき顔見知りになり不安な事や要望を傾聴し安心できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に御家族様のお話を聞かせて頂き不安を解消できるようなサービス提供をする事と良い関係づくり、協力できる体制を保てるよう話し合い支えあう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して利用できるよう本人及び御家族の要望をしっかりと把握し、安心してサービスを受けられるよう地域のケアマネと連携をとり様々な視点からのサービス提供に出来る限り対応していくよう支援方法を検討する事に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある「ともに安心して暮らす事の出来る居場所」を胸にご本人の出来る事、昔からやっていた事等を把握し、日常会話の中から様々な要望を話せる関係づくりや居場所づくりを実施するための職員配置の工夫を行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、御家族の思いを職員がうけとめ、御家族様を含めた行事の参加を実施し外泊、外出、通院等を含め御家族様の絆を大切に考えています。GHでの暮らしがわかるように毎月通信を御家族様に発行しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、馴染みの美容室、自治会の行事に参加し繋がりを大切にしています。入居後も良い関係づくりが継続できるよう支援を行っております。	日常的に交流や参加していた道の駅のサロンが中止となっており、また面会も禁止している現在は外部との交流が難しく、再開時に参加できるように考えている。これまで続けてきた新聞紙による生ごみ入れの作成は継続しておりスーパー等での配布を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、自然な関係が築けるように職員が介入し、お互い、ともに支えあえる様な支援に努めています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で会った時には挨拶を交わし、良い関係性の保持に努めております。入院された時にはお見舞いに行かせていただいております。亡くなられた場合には葬儀に参列させていただき、これまでの関係を大切にしていきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。希望をお聞きすることができない入居者様におかれましてはそれまでの生活歴をお聞きし本人本位になるように努めています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の会話や言葉、行動から把握するようにしており、更にセンター方式を活用して把握に努め思いの実現ができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用しています。今までの生活歴がどのようであったかわかるように職員間で情報を共有しています。何かわかりましたらその都度追記しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やD4シートを使ってその日にあったことを職員みんながわかるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと職員で定期的にサービス担当者会議を開いています。ケアについてや改善方法等話し合い介護計画を作成しています。ご家族様とはできるだけご自宅に訪問をし希望やご意見を伺い介護計画を作成しています。	介護計画は基本的に6か月ごとに利用者、家族の意向を把握して反映できるように見直しを行っている。毎月の会議の中でケアカンファレンスに組み込み、利用者の状態を職員全員で共有し、現状に即したサービス提供が出来る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やD4シートを使って日中や夜間帯も様子がわかるよう情報を共有しています。職員との会話や様子を記録から読み取り介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のニーズに柔軟な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は新型コロナの影響で自治体主催の「いきいき百歳体操」や道の駅での「みちくさサロン」を見合わせています。命の方が大事です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は基本的にはかかりつけ医にご家族様に対応をお願いしています。その際日常の様子や情報提供を行っています。ご家族様が遠い方やご不在の時は看護師又は職員が対応しています。又、清里クリニック様の往診も対応しています。	病院受診は基本的には家族の協力で行われているが、往診を受けている利用者もいる。事業所には看護職員が在籍しており24時間対応で適切な支援が行われている。	

グループホームととも中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間体制で連絡を取ることができ職員は不調者が出た場合はすぐ連絡を取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には看護師又は職員が同行しています。町で作られた共通の「連絡シート」を使って状態を報告しています。退院時についてもそれまでの生活に変化がないか病院と連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になりそうな場合を考えご家族様、看護師、ケアマネが病院に出向き先生のお話を聞いています。先生のお話を職員に伝え緊急時には具体的にどの様にするか話し合いをし方針を共有しています。	重度化した場合や終末期の在り方については、利用契約時に指針、方針に基づいて説明し理解と同意を得ている。対応が必要な状況に近づいた時は再度説明し、医療、家族、事業所連携のもと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にはマニュアルに沿って対応できるよう内部研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害の避難訓練を新人職員を中心に行い安全に避難できるように体制を整えています。今年はコロナ過の影響の為3みつを避けるため地域住民やご家族様等の参加は見合わせております。	災害対策は平常では年4回の避難訓練実施や、救急救命訓練の参加に取り組んでいるが、本年は感染拡大防止のため職員による火災避難訓練が行われ安全体制がとられている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を尊重して声掛けをしています。それまで生きてきた誇りやプライバシーを守るよう心掛けています。新しく入った職員には研修を行っています。	一人ひとりの人格やプライバシーを損ねない様、毎年全体会議の中で研修に取り組み、適切な接遇や介護が出来る様に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様が選択、決定ができるようお声をかけさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちに沿うように心掛けています。天気のいい日は外に出るよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行ったり、美容室の方に来ていただいで散髪しています。好きな化粧品を職員代行で買ってきます。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや食器洗いを職員と一緒にを行っています。食事の前には嚥下体操を行いムセや誤嚥にならないよう予防策をとっています。今年はコロナ過なので外食は控え、その代わり「弁当の日」をつくりご自分の好きな弁当をメニューを見て選んでもらいみんなで頂きました。	利用者一人ひとりの状況に応じ食事形態の工夫や好みを考慮しながら家庭的な雰囲気の中で職員と一緒に食事をとっている。調理専門の職員がメニュー作成と調理を行い、出来る事は利用者と共に楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録しています。自力で食べられない入居者様については食べるペースにあわせ職員が介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には義歯がついているかお声をかけさせてもらい確認をし食事が終わった後には口腔ケアをするようにしています。職員と一緒にを行っています。口腔ケアが難しい入居者様については職員が行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣の把握に努めています。排泄が思うようにいかず気持ちが不安定になる入居者様におかれましてはパットやリハビリパンツを使い気持ちよく安心して過ごして頂けるよう支援しています。また羞恥心に配慮しトイレの声かけは入居者様全員にさせていただいております。	排泄記録を取りながら一人ひとりの状況を把握し、日常生活が気持ちよく安心して暮らせる様、プライバシーに配慮しながらパターンや習慣を考慮し、さりげない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分を摂ってもらえるよう心掛けています。必要に応じて看護師指示のもと下剤の調整も行っています。適度な運動も効果的である為、廊下歩行運動やフロアでいきいき百歳体操をしたり朝はテレビ体操をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日の設定はありますがその日の体調や気分に応じて変更する時もあります。その場合は必ずご本人様と相談させていただきます。	安全な入浴を基本に週2回、利用者のその日の状況、状態を考慮しながら必要な時には複数の介助や希望で同性介助で入浴を楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動してもらい夜は寝てもらおうといった基本的な生活習慣を大切にしています。夜トイレが近くトイレまでの歩行が難しい入居者様につきましては夜間のみポータブルトイレを設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用状況は個人記録に添付し職員がいつでも確認できるようになっています。確実に服薬できるよう個別で薬を持って行きしっかりと飲んだかを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しやりたいことができるよう支援しています。お茶の先生でいらした方にはお茶がたてるよう準備をします。入居者様と職員で作る新聞袋は町のスーパーにおいてもらい買い物に来たお客さんが使ってくれています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年には本当に特別な年になり全体での外出は見合わせております。少人数にて施設周辺の外散策や散歩を楽しんでいます。	全体での季節の行事やドライブ、個別の買い物、道の駅のサロンへの参加等、希望に沿って外出支援に取り組んでいたが、本年は新型コロナ感染対策で困難になっており事業所付近への散歩や外気浴で気分転換を行い楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金は施設で保管させてもらっています。買い物の時に何か希望はないかお聞きしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に暑中お見舞いのはがきや年賀状のはがきを書いてもらっています。手が震えて書けない入居者様には職員が代筆をしています。又、お中元等届いた入居者様にはお礼の電話をさせてもらい入居者様から直接お話ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は温度管理をし快適に過ごしてもらえるよう気を付けてます。トイレがわかりやすいよう色で区別しています。居室の扉も静かに開閉ができて転倒の心配が少ない吊り戸にしています。広い窓からは景色を見て食事をしてもらおうとレースのカーテンは開いていることが多いです。	リビング中央に食卓兼用の大テーブルが据えられ利用者は皆で談笑している事が多く、この場所で寛ぎの時間を過ごしている。利用者と職員は一緒に掃除に取組み清潔保持に努めている。広い窓からは斜里岳の遠景が望め季節感が感じられる様な作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではテーブルの位置を移動したりソファの位置を変えたりして落ち着ける空間を作り居心地がいい場所ができるよう工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や使い慣れた小物類をおいたり観葉植物や写真を飾る等、ご本人の希望を聞いています。又、安全に移動できるよう部屋の模様替えをしています。	居室には使い慣れた筆筒等の家具や仏壇、観葉植物が配置され、家族が描いた絵や写真が飾られ自宅同様に生活できる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は広い空間で廊下には、ほぼ手すりがついています。床はバリアフリーになっていて歩行器や車いす移動時も安全な床になっています。一人ひとりの居室には分かりやすいようお名前や飾りつけをしています。		



目標達成計画

事業所名 グループホームともに中斜里

作成日：令和 2年 12月 18日

市町村受理日：令和 2年 12月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	コロナウイルス感染の危惧が懸念されている。活動の自粛の必要性がある。 新型コロナウイルスの影響により、地域の方、家族の交流が少ない。 入居者様の感染予防対策 職員の予防対策と町との連携	感染予防対策の徹底 地域、家族との交流に対する新たな取り組み 町との連携を計り、情報収集を行い万が一に備え日々のシュミレーションを行う。	手洗い、うがいの声かけ 万が一に備えて、町と日々連絡を取り合い、感染予防の行動の確立。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。